
タイセツナヒト

ペケポン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タイセツナヒト

【コード】

N0416Q

【作者名】

ぺけポン

【あらすじ】

初コーコーです・・・。

ウルビダとヒロトのお話です。

(ウルビダ視点)

ぐだぐだで意味わからないと思いますが！
読んで下さるとウレシイです〜)。ー。<

私の名はウルビダ。玲名とも言う。

ジエネシスの一人だ。

またヒロトの・・・お世話係といってもいいだろう。

アイツは小さいころから一緒にいる。

ヒロトは・・・どんなときでも楽道家だ。

今から半年前。

ジエネシスは雷門中にまけてしまった。

後半で一点を取られてしまったのだ。

・・・お父さんの期待に答えられなかった。

そしてエイリア学園は壊れてしまい、少年少女保護施設に行くトラ
ックの中で考えた。

私たちは今までなにをしてきたのか・・・。
いろいろな人に迷惑をかけてきた・・・。

大切なサッカーを・・・。

大好きなサッカーを・・・。

私は続けることができるのだろうか・・・。
そのときヒロトが私のそばに座った。

玲名「・・・なんだ」

ヒロト「なんか考えてるでしょ。癖。でてるよ?」

ヒロトは私の人差し指をみていた。

玲名「……………」

ヒロト「オレに話してみる?」

玲名「…………おまえには関係ない」

ヒロト「…………そう。じゃあ話したくなったらいつでも来て」

そういつてヒロトは小さな微笑みを残していった。

今 ヒロトはここにはいない。

イナズマジヤパンでがんばっている。

ヒロトのことはリユージに頼んだ。…………心配だから。

ずっと小さい時からいっしょにいた奴がフツといなくなるのは少し寂しい気がする。

だがヒロトが施設から出ていく時言った言葉があれば大丈夫だろう。

「玲名は何も悪くないよ…………だから自分を責めないで。

自分にもっとやさしくなって…………最後に—

っだけ…………」

“ もっと笑って ”

私は涙が出てきた。人前で泣いたことがない。

おもわずヒロトの胸で泣いた。

私の知らない間にヒロトは暖かくて大きな胸をもっていた。

今大好きなサッカーが好きな私がいるのは

ヒロトや仲間達のおかげだろう。

またみんなとサッカーする日をゆっくり待つことにしよう。

私はみんなを信じているから・・・。

END

(後書き)

・・・ほんっつとスイマセン!!

意味不だしイ!!!

今度はがんばりますです・・・／(。□／(／□。□／(／

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0416q/>

タイセツナヒト

2011年1月13日03時13分発行